

**竹島小のスローガン**  
笑顔あふれる  
楽しい学校

学校だより

令和2年度 第10号

児童数：220名  
 筑西市立竹島小学校  
 令和3年2月8日

## 1/13・14 書き初め大会

書き初め大会が行われ、各学年みんな真剣な表情で取り組んでいました。低学年は書き方ペンで、3年生以上は毛筆で、1年生『お正月』、2年生『新しい年』、3年生『生きる力』、4年生『元気な声』、5年生『心を開く』、6年生『希望の朝』の文字を書きました。



## 1/15 6年生 租税教室

市の職員の方が税金の使われ方について教えてくださいました。税金のおかげで学校や公園、道路などが整備され、自分達の生活が成り立ち、安全に快適に暮らしていただけることを知り、納税の大切さや公共のものをだいに扱うことの大切さを改めて学びました。



## 2/3 避難訓練

地震を想定した避難訓練が行われました。竹島小の避難場所は、第1避難場所が校庭、第2避難場所が体育館、第3避難場所が3階会議室、第4避難場所が体育館前駐車場付近となっています。今回は、1階教室の外に面した扉や昇降口から第1避難場所へ集まる学年と、非常階段を使用して第4避難場所へ集まる学年とに分かれ、児童が2カ所に避難した後、合流する場合を想定して訓練しました。



### 竹小ものしりクイズ

毎日、おいしく栄養バランスバッチリの給食ですが、竹島小児童に一番人気のあるおかずは何でしょう？

第9号の答え  
現在の竹島小学校の校旗は、平成25年に地域のみなさんが寄贈してくださったものです。なお、初代校旗【小栗俊夫氏 昭和46年 新校舎竣工時寄贈】は、竹島小の玄関に掲示されています。



【新校旗贈呈の様子】



【初代校旗】

## 伝えていきたい伝統

校長 武田 孝彦

暦の上では立春を迎えましたが、まだまだ朝晩は寒さが厳しい日々が続きます。今年の節分は、124年ぶりに2月2日になりました。節分は本来「立春、立夏、立秋、立冬の前日」を指し、季節を分ける節の日として設定されていましたが、このうち立春の前日の節分だけが現代に残りました。立春は二十四節気というところの春の始まりを指す日です。季節の変わり目に起きやすい災難や病気などを鬼に見立てて節分の豆まきが始まりました。また、家の入口に鰯（いわし）の頭を指した柵（ひいらぎ）の枝をさしておく風習もあります。それは鰯の悪臭と柵のとげで鬼を退散させるためです。最近では恵方巻にかぶりつく風習が全国に広まりましたが、元々は関西が発祥であり、スーパーやコンビニで恵方巻を売るようになったのは1990年前後からだといわれています。厄除けの節分により、早くコロナも退散してほしいものです。

節分の他、2月には初午があります。今年は立春と同じ2月3日でした。初午は、奈良時代に京都の伏見稲荷大社に祀られている五穀をつかさどる農業の神様が、稲荷大社に鎮座されたのが初午の日であり、毎年お祭りをしたことから初午の日が広まったそうです。そして、その神様のお使いがきつねだったことから、好物である油揚げやいなりずしなどをお供えるそうです。しかし、この辺りでは、初午の日の行事食は「しもつかれ」です。これは、栃木県を中心に北関東に伝わる郷土料理で、鬼おろしですった大根と人参に、鮭の頭や油揚げ、野菜、大豆、酒粕などを入れて煮込んだ料理です。7軒の家の「しもつかれ」を食べると病気になると言われ、近所で交換して食べてきました。


日本には、地域に長年伝えられてきた風習が存在します。めまぐるしく価値観が変わる社会において、このようなものは、ともすると忘れられていくような気がします。しかし、これら一つ一つには、先人の知恵が詰まっています。これらの風習を伝えていくことも大切なことだと考えます。



♥ 古切手、書き損じはがきの寄贈 ♥

児童のボランティア委員会代表を通して、皆様に収集のご協力をお願いしている古切手を社会福祉協議会に贈呈いたしました。

また、書き損じはがきについても茨城県PTA連絡協議会に送らせていただきました。いつもご協力ありがとうございます。



ありがとう  
ございました

横島の広進商事様がマスクを寄付してくださいました。筑西市の小学校1年生と2年生全員に1パックずつ配付される予定です。大切に使用するように児童に話したいと思います。ありがとうございました。